

令和6年9月4日

熊取町議会  
議長 河合 弘樹 様

熊取町長 藤原 敏司

### 第130回 大阪府原子炉問題審議会の概要について

令和6年8月9日(金)に開催された第130回大阪府原子炉問題審議会の概要について報告します。

1. 開催日時 令和6年8月9日(金) 午後2時30分

2. 開催場所 大阪府庁本館5階議会特別会議室(大)

3. 熊取町出席者(敬称略)

河合 弘樹	熊取町議会議長
渡辺 豊子	熊取町原子力問題調査特別委員会委員長
西野 洋	熊取町原子力問題対策協議会委員長
藤原 敏司	熊取町長

4. 議題

#### (1) 役員を選任について

委員改選後初の審議会で会長及び副会長2名のうち1名が不在となっているため、会長には辰巳砂昌弘氏(大阪公立大学学長・公立大学法人大阪副理事長)、副会長には西田和代氏(関西研究用原子炉対策民主団体協議会代表)が選任されました。

#### (2) 京都大学複合原子力科学研究所の安全性等について

1. 原子炉施設の状況等について

① 京都大学研究用原子炉(KUR)及び京都大学臨界集合体実験装置(KUCA)の利用等について

令和5年度のKUR、KUCA及び他の放射線施設等の利用については、全国126の大学、研究機関等から延べ3,464人・日の研究者・学生が来所し、共同利用等に係る実験・研究が行われたこと、また、令和6年度のKURは、令和6年7月23日から令和7年2月6日までの間、利用運転を行う予定で、KUCAについては、低濃縮燃料での運転切り替えのため、令和3年7月末から運転を休止しているとの報告がありました。

② KUCA燃料の低濃縮化の状況等について

平成28年の核セキュリティ・サミットにて日米合意されたKUCAの低濃縮化については、現在、最初の低濃縮ウラン燃料の搬入等に向け、国内外の関係機関と調整のうえ、準備を進めており、搬入後は、使用前事業者検査、利用運転に必要な許認可手続き等を経て、令和6年度中には低濃縮燃料により運転を開始し、引き続き、原子炉物理等の基礎研究や国内外の学生を対象とした実験教育・人材育成を行っていくとの報告がありました。

2. 廃止措置実施方針の見直し・変更について

① 見直し等の経緯

原子炉施設の高経年化が進み、今後、多くの施設の廃止措置が行われることが想定される中、

施設の稼働停止から廃止へのより円滑な移行を図るため、廃止措置を講ずる前の早期の段階から、当該措置を実施するための方針（以下「廃止措置実施方針」という。）の作成等を義務付けることとなり、平成29年に関係法令が改正され、平成30年12月28日付けでKUR、KUCA及び京都大学使用施設（以下「使用施設」という。）の廃止措置実施方針を作成し、研究所ホームページにて公表した。

その後、KURについては、2回（令和元年10月10日、令和5年7月10日）、KUCAについては、2回（令和3年5月14日、令和4年5月26日）の軽微な変更を行い、使用施設については、KUCAの低濃縮化に伴い高濃縮ウラン燃料を米国へ全て返還したことにより、当該廃止措置実施方針は不要となった。

今回、廃止措置実施方針の作成等に関する運用ガイドに基づき、5年毎の見直しを行った結果、令和5年12月15日付けでKUR及びKUCAの実施方針の一部を変更し、当研究所ホームページで公表した旨の報告がありました。

## ②主な変更内容

令和3年4月に京都大学複合原子力科学研究所原子炉施設保安規定を改定した際、「放射性廃棄物でない廃棄物（使用履歴、設置状況等から放射性物質の付着、浸透等による汚染がないことが明らかであること、又は、十分な遮へい体により遮へいされていた等、施設の構造上、中性子による放射化の影響を考慮する必要がないことが明らかであること等に該当する廃棄物）」に関する条項を追加することになったことから、今回、廃止措置実施方針に当該廃棄物に関する記載を追記する変更を行うことになった旨の報告がありました。

### 3. 京都大学研究用原子炉（KUR）の自動停止について

KURは、出力5,000kwで運転中の令和5年8月24日に落雷による瞬時停電により、自動停止した。その際、KURは安全停止しており、炉室内外の放射線量も通常の値で問題なかった旨の説明があり、本事象については、原子炉施設等でのトラブル発生時の通報ルールに従い、速やかに大阪府他関係機関へ通報するとともに、当研究所ホームページにて公表を行ったとの報告がありました。

### 4. 第一研究棟のリノベーションについて

令和3年8月の本審議会で報告のあった総合研究棟の改修・増築について、昨年8月の本審議会で第二研究棟新営工事の報告がありましたが、この度、令和6年3月末に第一研究棟のリノベーション工事が竣工し、全工程が完了した旨の報告がありました。

第一研究棟のリノベーションでは、所外の研究者も利用できるレンタルラボやアクティブラーニングスペースの整備を行うなど、研究教育環境の更なる充実を図っている旨の報告がありました。

今後、KURの停止後も見据え、本研究所の他の実験施設とともに本総合研究所（第一・第二研究棟）を活用し、熊取キャンパスにて原子力・放射線を利用した独創的・先端的な複合原子力科学の研究教育を一層推進していく旨の報告がありました

### 5. 熱交換器からの2次冷却水（非放射性）の漏水について

令和6年7月25日（木）の午後6時26分頃、KURの熱交換器室（放射線管理区域内）に設置されている3基の熱交換器のうち、1基からの漏水が発見されたとのこと。漏水箇所は1次冷却水と2次冷却水とを分離する管板の2次冷却水側の接合面（ゴム製パッキンを介して接合）であることを確認し、その後、漏れた水を回収し放射能測定を行った結果、放射性物質は含まれていなかったため、今回漏水したものは2次冷却水（水道水を使用）であることを再確認でき、本事象による環境への影響は無く、他の原子炉施設への影響もないと判断した旨の報告がありました。また、全漏水量を200mlと推定したこと、漏水の原因はゴム製パッキンの不具合と考えていることについての説明があり、今後、当面の間（約1か月間）は利用運転を

中止し、詳細な漏水の原因調査を行うとともに、復旧作業や再発防止に取り組んでいくことについての報告がありました。

**(3) 京都大学複合原子力科学研究所定例報告について**

令和5年6月から令和6年5月までの原子炉の運転状況、令和6年度共同利用研究及び専門研究会の採択状況、令和5年4月から令和6年3月までの環境放射能測定結果について報告されました。

環境放射能測定報告では、原子炉施設に起因するものと考えられる人工放射能は検出されず、周辺環境における放射能及び放射線は自然のレベルであり、住民の健康に影響を与える結果は見られないとの説明がありました。